

現代の漢字

繁體字 書 長 車 廣 滅 務 錄 飛 齒 廠 觀 對 從 雲 淚 網 婦 麗 賀 愛

新字体 舉 長 樂 車 広 錄 減 務 鄉 飛 齒 廠 觀 對 徒 雲 淚 網 婦 麗 習 愛 芸

※ 簡体字は1960年代に制定され、中華人民共和国で使われている。繁体字は台湾、香港マカオなどで使われている漢字。ほぼ日本の旧字体である。新字体は日本で作られた漢字。

東アジア世界の成立（現在の中国、朝鮮、日本、ベトナム）・上原專祿氏・西嶋定生氏の学説。

中国文化を中心とする一つの文化圏・漢字文化圏（漢字、儒教、漢訳仏教、律令などを受容した国々。）

19世紀以前の地球上にはそれぞれ独自の文化を持つ複数の世界が併存した。

(古代オリエント世界・地中海世界・東アジア世界・南アジア)

- 16世紀以降ヨーロッパ世界が諸世界を支配していく。
 - 19世紀以降地球は一つの世界になる。
 - 第一次世界大戦以後世界はヨーロッパ人がつくりあげた単一のヨーロッパ人の世界秩序となった。（支配と従属の構造）

「東アジア冊封体制」 さくほう という秩序構造 (君臣関係)

皇帝から与えられた冊命(任命書)によって封ぜられる任命行為を「冊封」と呼ぶ。

前194頃：朝鮮王を自称していた衛滿が朝鮮王に冊封された。

前179頃・南越の武帝と自称していた趙佗が南越王に冊封された。

紀元 57・倭奴国王を冊封

文化圈与政治圈

文化と政治とは同一物の二面である。

秦漢代の政治制度（中央集権的官僚国家など）と精神文化としての儒教が、



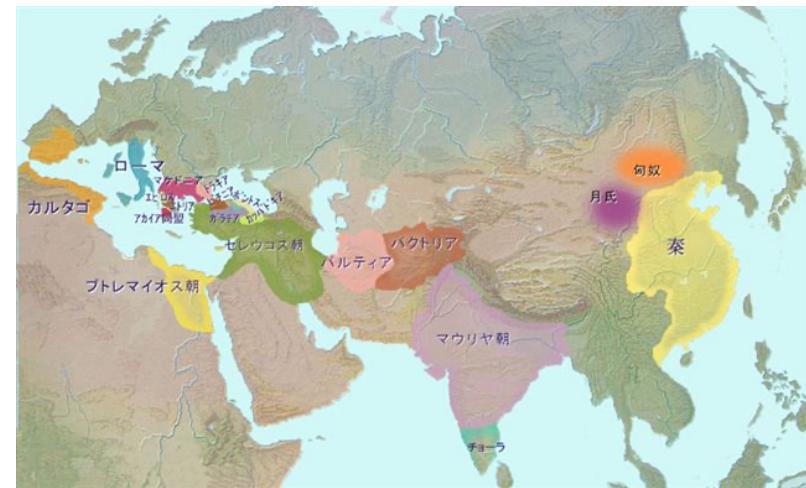
10世紀のユーラシアの地図



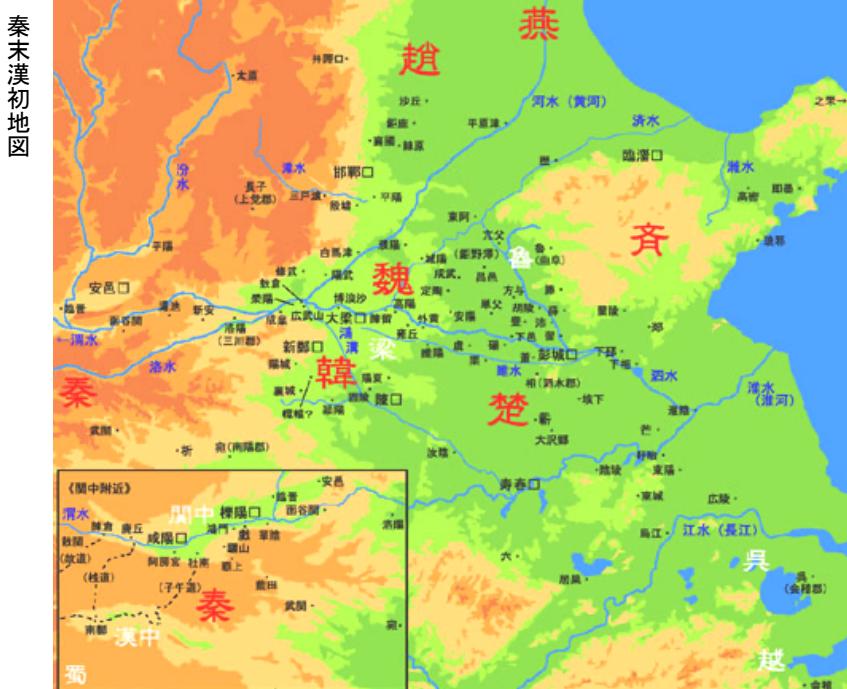
以後 2000 年の中国文明の基準となった。

秦漢帝国年表 1 (秦～前漢～新～後漢)

- 前 221 齊滅亡 始皇帝中国統一
- 前 219 始皇帝二度目の巡遊で「泰山刻石」を築く
- 前 210 始皇帝五回目の巡遊の途中死去 胡亥二世皇帝に
- 前 209 陳勝と吳広の反乱 項羽と劉邦挙兵
「蜂起」「歯牙に懸けず」「先んずれば人を制す」
- 前 208 李斯処刑される 趙高丞相になり実権を握る
- 前 207 趙高クーデター 二世皇帝胡亥自殺
子嬰により趙高とその一党肅清される
- 前 206 劉邦、秦都咸陽に入り、子嬰劉邦に降る
「鴻門の会」の後、項羽、子嬰を殺す（秦滅亡）
(前漢始まる・高祖元年) 項羽、西楚の霸王と称し、十八王を封じ、劉邦、漢王に封建される
「左遷」項羽、楚の義帝を暗殺
- 前 205 楚漢戦争始まる（～202）
「彭城の戦い」 「金石の交わり」
- 前 204 「井陘の戦い」 「國士無双」「背水の陣」
- 前 203 「廣武山の戦い」
- 前 202 「垓下の戦い」 項羽 烏江で自害「四面楚歌」「辟易」
劉邦、漢の高祖となり中国統一
- 前 200 劉邦 長安を都とする
- 前 195 劉邦没 恵帝（劉盈）即位



紀元前3世紀のユーラシア



前 194 長沙国丞相利蒼 軒侯になる 馬王堆

この頃衛滿朝鮮王に冊封される

前 180 呂后死去 呂氏一族、誅殺される この頃趙佗南越王に冊封される

前 165 頃 『旧約聖書』

前 154 吳楚七国の乱 最古の紙

前 141 武帝（劉徹）即位。 隸書の草書化

孔子旧宅の壁から古文經書出現

前 140～126 張騫 大宛国（西域）に遠征 「夜郎自大」

前 136 武帝、五經博士を置く 以後儒教が国教化

前 129～前 119 対匈奴戦争「李下に 冠 を正さず」

前 121 河西四郡（武威・張掖・酒泉・敦煌）を置く

「敦煌漢簡」「居延漢簡」 隸書の正体化 居延筆

前 108 武帝、衛氏朝鮮を平定、朝鮮四郡を置く（樂浪郡など）

前 91 頃 司馬遷『史記』完成 「曲学阿世」「傾国」

前 48 頃 史游『急就篇』

前 37 朝鮮に高句麗建国

前 33 王昭君、匈奴の王 呼韓邪 单于の妻となる

前 30 クレオパトラ自殺 エジプト滅亡

前 4 頃 イエス生まれる（前 8 年説有り）

9 王莽が「新」王朝を建て、前漢滅亡

23 新滅亡



紀元前 2 世紀のユーラシア



紀元前 1 世紀のユーラシア

25 劉秀(光武帝)皇帝となり、後漢王朝を建国し洛陽に都す

28頃 イエスの受難

29 大学が建てられる

57 倭奴国、後漢に朝貢 「漢倭奴国王印」

65 蔡愔らを西域に派遣し、仏教を導入

68 白馬寺建立(中国初の仏寺)

100 許慎『説文解字』完成 草書発達

105頃 蔡倫、製紙法を大成する

117 ローマ帝国領土が最大となる ローマ帝国全盛時代

159 宦官、政権を握る 石碑流行

166 「党錮の獄」 大秦國(ローマ帝国)皇帝安敦(アントニウス)の使者到来

175 「熹平石經」(蔡邕)

184 黄巾の乱(張角)

204 曹操 石碑建立を禁じる 墓誌銘の発生

207 三顧の礼 天下三分の計

208 赤壁の戦い

220 曹操没 曹丕魏を建国 献帝曹丕に禅譲し後漢滅亡

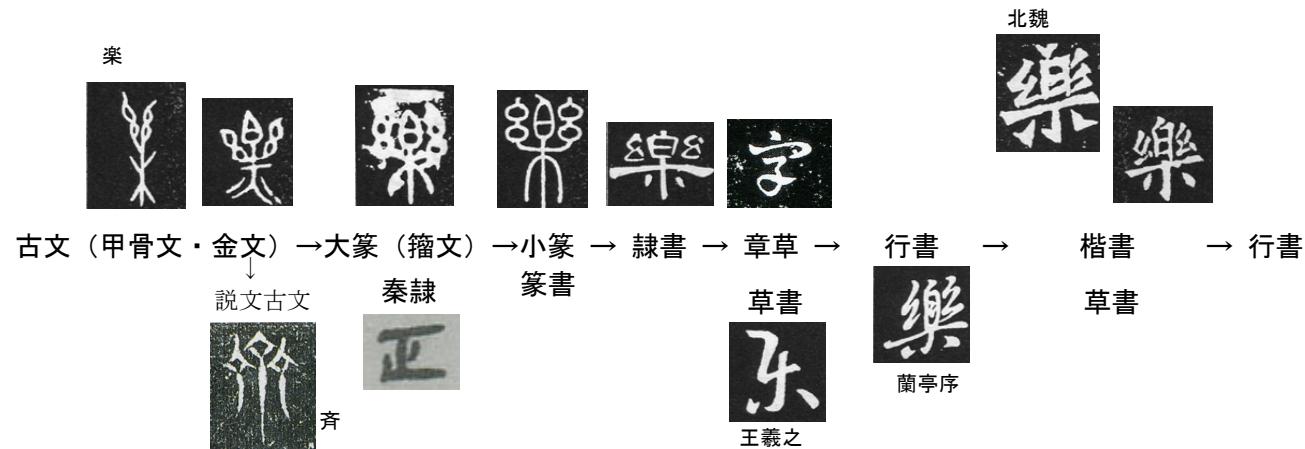


1世紀のユーラシア



3世紀後半のユーラシア

書体の変遷



漢は隸書の時代

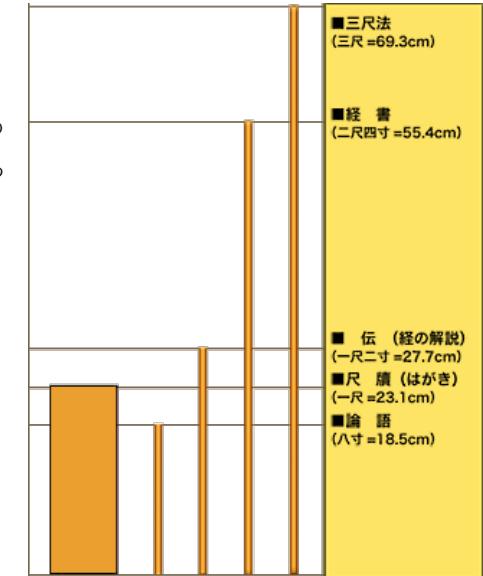
隸変は篆書→古隸→八分隸と進化したのではなく、古隸と八分が同時に混在しながら整理されていったと思われる。



かんとく はく 簡牘と帛の書

帛書とは帛（絹布）に書かれた書物のこと、簡牘とは竹簡、木簡と木牘の総称。簡は、細い竹もしくは木の札のこと、牘は簡より幅の大きい札を指す。最古の紙は1986年に甘肃省天水県から前漢初期の地図を描いた残紙が発見された「天水紙」。しかし、紙が書に使われるのはまだ数百年後である。

漢代の一般的な簡牘は長さ一尺、皇帝用の簡牘は長さ一尺一寸、経書用の簡牘は二尺四寸と、用途に応じた定型で作られ、長い文章のときにはつづりあわせて冊（編綴簡）にした。紙が普及しはじめた魏晋の頃には、文書に紙と木が併用された。長い文書には紙が使われ、簡を束ねて冊を作ることはあまりしなくなった。そのせいで木簡は一枚で完結する文書に用いられることになり、形の規格がなくなった。



篆書から隸書へ (隸変)

文字全体にある波のようなリズムが隸書の特徴である。このリズムを波勢とい。直筆（篆書の書き方）から側筆への用筆法の変化が波勢を生んだと思われる。その背後には筆や墨の改良の影響があったと思われる。

篆隸の特徴 逆入・藏鋒 中鋒 運筆（一定の筆力、一定の速度） 横画水平、縦画垂直 左右対象 転折

隸書の特徴 波磔 転折わける（角張る）



せいせんもくとく 青川木牘 (前309～前307、戦国中期の秦の文字)

秦隸と呼ばれたりする秦の通行体 1979年に四川省青川県で発見された。

秦の農地法（田律）が墨で書いてある。長さ46cm、幅25mm、厚さ4mm。篆書体もある、点画の簡略化、直線化が進んでいる。「さんずい」や「しんじょう」は隸書体である。この木牘の発見により、始皇帝による統一より100年も前に秦において隸書が通行していたことが証明された。



雲夢睡虎地秦簡

（前217以前、前227頃か。始皇帝による統一前後の秦の通行体・秦隸）

1975年に湖北省雲夢県睡虎地秦墓より発見された。長さ23～28cm、幅5～6mm。秦の法律などが書かれている。

角ばつた転折部、起筆に逆筆がみられる、収筆部が太くなつて波磔（右払い）の原形らしきものが書かれている。

注 繢帛書簡二甲・青龍虎符 篆文良侯居印上造へ上不盡金賞二
甲・陰土之發奏書不和律及發奏書不中勅賞二甲・發奏書不中
賞二甲文書及住之・篆繢除四歲不能 篆文良侯居印上造者一盾金賞四歲數次

石不正十六

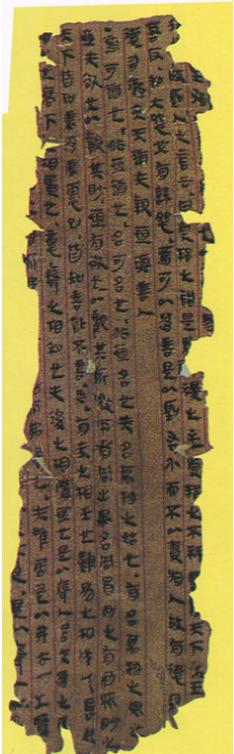
一

馬王堆帛書

絹に書かれている。医学や陰陽五行などの書籍類である。大部分が幅48mmの布地に書かれている。「睡虎地秦簡」の書風に近い。木や竹の札を紐でつないだ書簡を「簡書」と呼ぶが、絹に書かれた書を「帛書」と呼ぶ。絵が描かれているものは「帛画」。

※馬王堆漢墓（前186～前168の前漢代のもの。1972年湖南省長沙市郊外の馬王堆漢墓から利蒼夫人のミイラや帛画（はくが）、竹簡、帛書などが発見された。）（長沙国の轪侯利蒼とその妻子の墓）

「老子甲本」（前200頃。464行、1万3千字余。行幅6～7mmの朱の罫線を引いてある。篆隸の中間的な書体、草篆と呼ぶ人もいる。）



參可堅可也可中可
古其名不谷へ順眾代
用自生者夫子自餘者
更全狂助宣・泣助是
不自與者事不自作

「老子乙本」
ろうしおつほん
(前198頃)

「老子乙本」
ろうしおつほん
(前198頃)

行幅6~7mmの朱の罫線あり。

152行、一万六千字余。字形は方形で、波磔が明瞭で八分隸に近い書風。

氣復正
有陽重時
不傳當

「戦国縦横家書」(せんごくじゆうおうかしょ) (前190頃)。篆隸両方の書風。戦国時代の縦横家の故事について書かれている。行幅6~7mm

の朱の罫線を引いてある。一万一千字余。)

王贊公集

「馬王堆一号墓出土の木牌」 もくばい

(竹製の箱の竹筒に付けたもの。
ちくし
章草風の筆意がある。)

The image shows two vertical wooden bookends with arched tops, positioned side-by-side. The bookend on the left is inscribed with '籍笥' (Jiè Sì) in calligraphy. The bookend on the right is inscribed with '父屋角' (Fù Yū Jiǎo) in calligraphy.

「馬王堆二号墓出土の医簡・合陰陽」

寫體詩題動海上常
秋月夜半存

樂

「鳳凰山木牘」(前164) 1973年～75年、湖北省江陵県鳳凰山の前漢墓で発見された。すでに波磔があ
る。



「銀雀山竹簡」

(前漢初期・前140～120頃)の竹簡。1972年に、山東省臨沂県銀雀山の前漢墓より約5千点

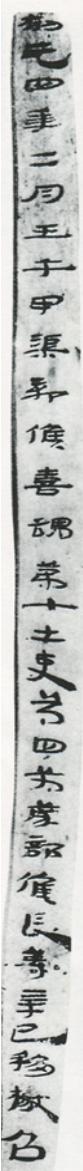
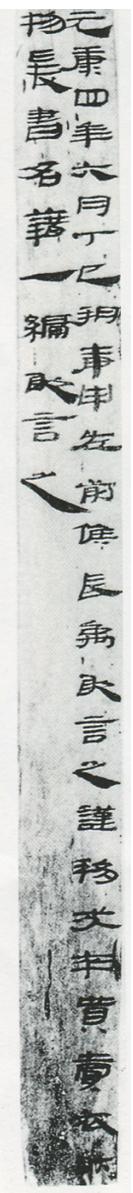
出土した。「孫子」、「孫臏」、「墨子」などが書かれている。書風は馬王堆帛書に通じる篆書系のものと草隸風のものがある。篆意を内在した隸書。通行体。)



「居延漢簡」

(前漢中期から後漢初期にかけてのもの。1930年～31年にスウェン・ヘデインの西域調査隊

によつて内蒙古自治区エチナ河流域より出土した木簡を旧簡、1972年～74年の再調査により発見されたものを新簡と呼ぶ。軍事記録や帳簿、医学処方、暦などが書かれている。総数約3万簡。書風は多様。章草風のもの、草書の萌芽をみせているもの、八分などが見られる。「手」や「薄」などの長脚法(収筆の縦画を装飾的に長く伸ばす表現法)や長い横画の波磔も多用されている。)

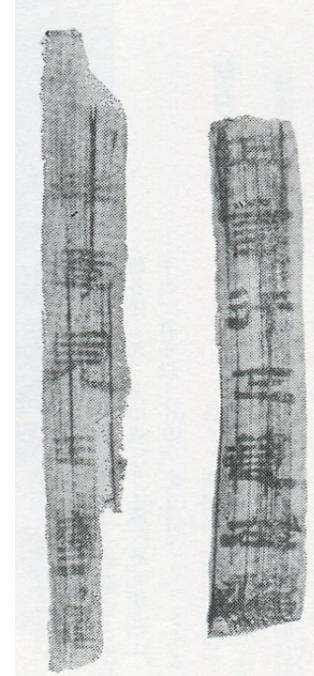


阿狗子 余力勿レ已名善 元 写水波用此三乙死。

元 写水波用此

康言之林之之之之
龜 力
車 長林永馬叩頭死罪
蒲書一封 龜有長印

也 也 也 也 也 也



「定縣竹簡」（前53頃）1973年、河北省定縣八角廊村40号墓出土。「論語」などが書かれている。

八分隸。